



大阪市立大学
工学部同窓会

大阪市立大学工学部同窓会報 第29号

2013年（平成25年）12月25日発行

同窓会だより

大阪市住吉区杉本 3-3-138

TEL 06 (6607) 8373

FAX 06 (6605) 2769

発行人 木村 雅之



工学部同窓会事務局撮影

《 目 次 》

木村会長・日野名誉会長の挨拶	2	学生向け工場見学会	13
学科の近況・会員短信（機械工学科）.....	3	2013年工学部卒業生名簿	14
〃 （電子・物理工学科）.....	5	〃 工学研究科修了生名簿	15
〃 （電気情報工学科）.....	7	〃 工学部入学生	16
〃 （化学バイオ工学科）.....	8	〃 工学研究科入学生・第25回評議員会案内	17
〃 （建築学科）.....	10	工学部同窓会事務局年報	18
〃 （都市学科）.....	11	工学研究科・工学部研究分野・編集後記	19
ご寄付のお礼とお願い・ご寄付者名	12	平成26年“工学部同窓会の集い”の案内	20

ご挨拶

工学部同窓会会長 木村 雅之



向寒の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。日頃は大変お世話になっております。同窓生諸兄にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

また、平素は工学部同窓会活動にご理解とご支援を賜っておりますこと、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

大阪市立大学同窓会も、設立1年を過ぎホームカミングデーを大学御当局と合同で開催するなど、ようやくその活動も緒についてまいりました。引き続きこちらの方にもご支援を賜りますようお願いいたします。

さて、皆様も報道や同窓会関係のお知らせにより御承知のこととは存じますが、われらの母校である大阪市立大学は今、大きな変革の時期を迎えております。大阪市のホームページから最新の情報を拾ってみますと平成25年10月に発表されました「新大学構想」では、1. 新たな教学体制の構築

2. 選択と集中による教育組織の再編 3. 大学運営システムの抜本的改革 を実現するため大阪府立大学と統合を進め、平成27年度中に1法人化、平成28年4月1日から1法人1大学を目指されております。特に工学系は両大学に存在することから再編成が避けられないところであります。

我々同窓会としましては、大学発展のため、できる限りの援助は惜しまないつもりではありますが、どうしても避けては通れない問題があります。それは、大学の統合と合わせて同窓会も統合するのかということでもあります。また、これに伴って同窓会費をどのように集めるのか、今ある資産をどのようにするのかといった問題も出てきます。今後同窓生諸兄の御意見を承りながら、市立大学同窓会や大学ご当局とも意思疎通を密にしていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、時節がら十分ご自愛をされお元気でお過ごしいただけるようお祈りしております。

(電気・51年卒・大阪市北消防署)

工学部・工学研究科の近況

名誉会長 日野 泰雄



今年の暑い夏が終わったのかと思った頃には、台風が頻発し、気温の差も激しく、同窓生各位には体調管理に苦慮しながらもご活躍のことと思います。

研究科長・学部長として2年目も残すところ3ヶ月となりました。今年度は、佐藤嘉洋副研究科長と鳥生隆教育研究評

議員とで研究科・学部の運営に当たっています。

昨年度に研究科長に就任してから、何とも慌ただしく時間が過ぎたように思います。この間、府大との統合問題やガバナンス強化の市長の意向の下での理事長・学長や研究科長の選考方法の変更など、本来の教育・研究とはかけ離れたところでの用務が多く、卒業生各位にもご心配をおかけしているところかと思ひます。

今年は大学として採択された、テニユアトラック普及定着事業（工学研究科では今年度1名、来年度1名の採用予定）、COC地（知）の拠点整備事業、府大と共同採択の博士課程教育リーディングプログラム、女性研究者支援プログラムなどいずれも工学研究科に関わる内容となっています。また、人工光合成センター、地域連携センター、健康イノベーションセンターの設置やものづくり医療コンソーシアムの設立などハードソフトともに目に見えて大学が充実しつつあり、今後の社会へのフィードバックが期待されています。

大学内に目を向けてみますと、昨年JR杉本町駅の東改札口が開設され、生活科学部の敷地内に「南部ストリート」、JR沿いに「さくら通り」が整備され、現在は工学部・生活科学部と理学部の間にある「けやき通り」の整備が進められています。これに関連して、工学部の南側に出入り口が新設されるなど、理学部の立て替えと併せて、理系地区が様変わりしそうです。是非一度は大学に立ち寄ってみて下さい。

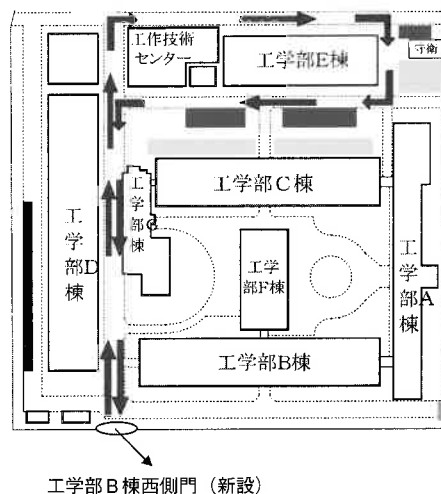
工学部では、新学科（機械、電子・物理、電気情報、化学バイオ、建築、都市）体制の一期生が巣立ちました。電子物理工学科の山下君が検定教科書を発行したことは、新聞でご覧になった方も多いかと思いますが、これから、一期生にも卒業後の活躍を期待したいものです。一方で、今年度の入学

表紙絵の説明

工学部B棟南側で金色に色づいた銀杏並木の遠景を大学正門前より写した写真

この銀杏並木の左前方に「工学部B棟西側門」が新設され、昨年11月18日より使用開始。

工学部のA棟以外への学舎に向かう車両はこの門から入出します（右の図を参照）。



生は、学部生292名、大学院生216名（前期博士課程184名、後期博士課程10名（内3名10月入学））でした。なお、本年度も昨年度に続いて学部生一人に、同窓会の奨学金が貸与されました。

近年、理系の受験生が増加している中、今年のオープンキャンパスには、3,924（前年比+235%）もの参加者があり、いよいよ収容能力の限界に近いほどの盛況振りでした。また、就職も順調で、工学研究科・工学部として、入口と出口でしっかりとサポートできているものと自負しています。

しかしながら、阪神淡路大震災から東日本大震災に至る大地震、台風等による風水害が頻発し、多くの方が犠牲になるなど、これまで以上にリスクマネジメントが求められる社会になって、ますます工学分野の果たすべき役割が大きくなってきていると感じています。

最後に、府大との統合問題ですが、本年10月には新大学構想会議の提案を受けて、市長による新大学案の発表がありました。それまでの間、工学研究科のみならず大学全体としても様々な検討を続けてきましたが、正直、依然として将来像を実感できていません。折しも、市大と府大の名誉教授の先生方を中心とする先輩方がアピールを発表されるなど、今後この荒波の中をどのように舵を取っていくべきかが問われるところだと肝に銘じています。

大阪市立大学逍遙歌の一節に、「栄えある使命果たさん」とありますが、先人の築かれた本学の歴史と伝統を後人に伝えていくことが肝要と考えています。末筆になりましたが、同窓会の皆様の益々のご活躍をお祈りするとともに、本学工学部へのなお一層のご支援を賜りますようお願いいたします。

（工学研究科長・工学部長）

機械工学科（旧機械・旧知材）

機械工学科の近況

山崎 友裕

卒業生の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

学科再編により平成21年度に知的材料工学科と統合されて新しくなった機械工学科ですが、3月に最初の卒業生49名を送り出しました。うち39名が大学院（うち4名他大学）に進学しています。旧機

械工学科は3名卒業、うち2名進学（他大学1名）、知的材料工学科は4名卒業、うち1名進学です。

さて、残念ながら皆様に悲しいお知らせをしなければなりません。昨年5月に森雄造名誉教授、今年3月に南齋征夫名誉教授がお亡くなりになりました。森先生は知的材料工学科の立ち上げにご尽力なさいました。南齋先生はご定年後も「機械製図」の非常勤講師として熱心に学生を指導してくださいました。お二人とも本学の卒業生であり、本学の将来について特に気にかけてくださっていたと思います。先生方のご冥福をお祈り申し上げます。

教員の異動については、2003年から知的材料工学科の研究・教育に貢献されてきた澤田吉裕先生が3月をもって定年退職されました。今年度は非常勤講師として「知的材料工学」をご担当いただいています。また、1999年知的材料工学科1期生の入学とともに着任されたAlexei Vinogradov先生が退職して帰国されました。今後のご活躍を祈念いたします。しばらく凍結されていた採用人事が久しぶりに行われ、4月には佐伯壮一准教授が山口大学から、知的材料工学科2期生の中谷隼人講師が東京理科大学から本学科に異動されました。

「新大学構想」に関して、学科の将来を案じておられるかたも多いと存じます。これまで優れた人材を輩出してきた本学科の伝統を傷つけぬよう今後も社会に貢献できる体制を保たねばなりません。卒業生の皆様のご支援を賜りますようお願い

願いたします。

（工学研究科教授・機械工学科主任教授）

同窓会：23機会 近況集

村田 昭



今年も例年通り我が「23機会」の同窓会は11月8日、大阪弥生会館で開催しました。その案内の返信に書いてもらった「近況集」を投稿します。八十路を半ば生き抜いた元気な老人（年齢84～86歳）の意気盛んなどを参考にして頂ければ幸いです。

- 伊藤俊夫：米寿も近づき、同窓会が次々と店仕舞いするなかで、我が23機会だけは毎年確実に開いていただけるのも貴兄のお陰であり、心より感謝しています。我が家は一時戦列をはなれていた家内も復帰し、家事一切をやって呉れるので小生は毎日教育（今日行く所を作る）教養（今日する用事がある）に励んでいます。君の新居での生活感想など再会を楽しみにしています。（海外からの急の来客で欠席）
- 伊藤和実：今年春、右足首と右小指骨折して車椅子の生活2ヶ月をへて、6ヶ月余りで、やっと完治しました。やっと同窓会に出席できる自信を得てこの葉書を出します。
- 梅田 正（内）：ご案内を頂きましたが、主人は3月27日永眠いたしました。お世話になり有難うございました。皆様には御身体お大切にお元気で過ごしてくださいませ。
- 大河原保：猛暑、豪雨に耐えました。カメラ・ビデオ楽しんでます。お世話になります。
- 佐古田敦己：体調が悪く出欠を迷っていましたが、よく疲れるので欠席に決めました。残念です。肩首腕の筋肉疼痛が治らないのです。3年程になり半ばあきらめています。適確な治療法がないようです。2ヶ月前に妻が狭心症で救急車で病院に運ばれました。それ以来不安定であった血圧と精神も今は落ち着いています。妻の野菜作りに協力してい

ます。年をとるということは、こういうことなのかなと自覚させられました。

○渋谷哲男：今年もお世話になります。毎日午前中1時間程の散歩、午後30分程のハーモニカの練習、以外は結構雑事に追われ、将に「光陰矢の如し」と痛感しています。体の方も年齢相応に老化が進み膝痛のため剣道もドクターストップの状態です。

○嶋田 定（息子さん）電話あり：肺炎で入院しており出席は無理です。宜しくとのことでした。

○堂岡 肇：都合により返事がおくれ申し訳ありません。毎日、相変らずのプール通いつとめており、頑張っております。

○西村貞雄：丁重な嬉しい案内状に感謝します。体調も良く、カラオケ、絵画を趣味に消光しています。皆様に会うのを楽しみに！！

○丸山公一：25年6月頃より歩行が悪くなりました。現在は車椅子の使用で外出しています。今回の大阪行きは約1ヶ月余りのリハビリに努力してから家族の同伴で出向くことにしました。皆様にお会いできるのは嬉しいです。

○宮尾信昭：出席させていただきます。変わらず溶接棒の研究をしています。村田幹事さん、お世話になります。感謝しています。皆様にお会いするのを楽しみにしています。

○村田 昭：お互い最晩年という齢になりましたね。3食付で、医療、介護は終身見てくれるらしい。それを信じて好きなことして時間を潰しています。PCのホームページはこのサンシテイの庭園の植物景色で誤魔化しています。是非皆さん見てください。最近iPad miniに挑戦しています。運動不足解消にルームランナーを買ったのですが続きません。無線と読書も時間つぶしです。今回、軍歌「戦友」の替え歌で近況披露したいと思っています。

○山中 博：白内障手術を控え、その他多用に付、残念ながら欠席します。

（機械・昭和23年卒）



「28機 同窓会」

四四会の44周年記念旅行

吉村 啓介



「四四会」は、機械科昭和44年卒の同窓生の集まりです。卒業以来毎年欠かさず、お正月に同窓会をしています。近年は1月2日梅田お初天神通りの「がんこ」で開催、幹事の宮本君を中心に旧交を温めました。

今年は、特別に卒業44周年を記念して10月10日から12日まで2泊3日の飛騨旅行。台風一過の初日10日午後、夫婦7組（北山、宮本、端山、高木、吉田、藤本、梶井）男性6人（太田、関、中村、玉野、向井、吉村）が、秋の高山祭りが行われていた櫻山八幡宮に集結。からく

り奉納や屋台を見たあと、車5台に分乗し「平湯温泉」に向かいました。馬場君とは旅館で合流。夜は総勢21人での大宴会。2次会も夜遅くまで盛り上がりました。

翌日は、車に分乗し、それぞれが別行動で好きなところ（新穂高ロープウェイ、飛騨大鍾乳洞、白川郷など）を観光し、夕方、「下呂温泉」で全員再合流。夜は、またまた大宴会、高木君企画の孫当てクイズや川柳の表彰式。2次会では、東京オリンピックまでに、また旅行しようということになり、次回の幹事長を梶井君が引き受けてくれました。

最終12日の朝、ホテルのロビーで関幹事長の解散宣言。帰る方向が同じ人の車に分乗し、再会を誓って別れました。

私の車の4人（玉野、太田、中村、吉村）は、郡上八幡へ。お城を見学後、四国に帰る中村君と郡上八幡駅でお別れ。博覧館で郡上おどりを見たあと帰路につき夕方5時頃大阪に帰着しました。

気のおけない同期の仲間との本当に楽しい3日間でした。
（機械・昭和44年卒）



「平湯温泉にて」

近況報告

瀬戸 圭介



同窓会会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。私は2000年 機械工学科（当時の）内燃研を卒業し、トヨタ自動車㈱にてブレーキシステムの開発に携わっております。

開発には市大で学んだ工学（制御、熱、材力、流体等）を基礎に新しい分野も含め学び、自身で成長し続ける事が重要だと感じております。

一方、先生方や諸先輩方からみれば若輩者の私も後輩の育成を考える世代になってきました。数年前にはリクルータとして市大を訪問し、弊社の説明会を行う機会を頂きました。若い力の成長をどうサポートするかを考えるのも重要な仕事の一つです。

弊社ではグローバル化が加速する中、生産の現地化に加え、開発の現地化を推進しております。アメリカの道路環境、文化を理解し、求められる製品をタイムリーに開発するのが目的です。

現在はアメリカ デトロイト近郊のテクニカルセンターに赴任し、現地のスタッフと苦手の英語でコミュニケーションをとりながら『もっと良い車造り』に取り組んでいます。

日本人コミュニティも有り、家族と共に海外生活という貴重な時間を楽しんでいます。また、インターネット、ソー

シャルネットワークのおかげで日本の情報収集や旧友との連絡も問題無く行え、便利さを実感しております。

この投稿を機会にまた、懐かしい方と連絡が取れるのを期待したいと思います。

それでは末尾ながら皆様の益々のご発展をお祈り致します。
(機械・平成10年卒・同12年前期博士課程修了・トヨタ自動車(株)USA)

近況報告

徳永 司



こんにちは。卒業生の皆様におかれましては、各方面でのご活躍のことと存じます。私は学部と院の3年間、機械工学科に籍をおき、2005年に富士フィルム(株)に入社しました。仕事内容は入社以来、主に透明導電フィルムの開発、製造に従事しております。透明導電フィルムは、

スマートフォンやIPADのようなタッチパネルなどに使用される部材です。白黒写真フィルムの技術を応用した商品で、感光材料として用いられる銀の導電性を利用したフィルムになります。フィルムの作成過程、特に、液の薄膜塗布を検討する際に、大学時代に学んだ流体力学の要素が色々な場面で出てきます(乱流、層流、管内摩擦など…)

特に、仕事をしている上で学生時代の研究室でご教示していただいた加藤教授の御言葉で、「とことん考え抜くことが大切である」という意味の重要性が、ようやく分かってきたこの頃です。フィルムの開発中に故障が発生したとき、フィルムや液になりきって熟考することで、原因の糸口を掴むことがよくあります。学生時代は、熟考することが全然出来なかったと記憶していますが、その大切さだけは学ぶことが出来て良かったと感じています。また、大学時代に流体の実験を行い、観察から推定したメカが、理論と一致しているかの検証を行う癖を付けることが出来たことは非常にありがたい経験だったと思います。

ほんの一例になりますが、学生時代に学んだことが、実際の仕事の現場で役立つことが多く、私は幸運にも楽しく仕事に取り組むことができています(時々、しんどいことがあります)。

ますが)。

最後になりますが、同窓会皆様方のご活躍とご健勝をお祈り致します。

(機械・平成15年卒・同17年前期博士課程修了・富士フィルム(株))

近況報告

荒木 永伍



卒業生の皆様におかれましては、各方面でのご活躍の事と存じます。昨年2013年3月まで材料数理工学部分野研究室でお世話になっておりました。

私は2013年4月に株式会社クボタに入社しました。約半年間の各研修を終えて、現在は生産技術として活躍できる人材となるべく、仕事をしております。

研究室でお世話になっていた頃は本当に様々な事をさせて頂けたと感じております。自分が思った事を実際に試してみる。結果に繋がるような事は少なかったのですが、考えた事を実行してみるというプロセスを経験させて頂きました。私が研究室で行っていた研究は磁気粘性流体と呼ばれる、磁気に反応して流体の粘度が変わる材料の特性を調べるというものでした。実験では溶媒を流す流路を自分で作成していましたが、実験も大変でしたが、流路形状の案を練って作ってみるのですが、実際に作ってみると流路の途中から流体が漏れ出たりするなどトラブルが多々起きて、実験以前の準備が思った以上にかかってしまう事が何より大変でした。しかしながらそういった経験から「モノの案ができて、形になれば意味がないのではないのか」と考え、生産技術という職種に興味を持ちました。

大学又は大学院で学んでいた研究を活かす事ができる機会はほとんどありませんが、研究で得た経験が今の仕事に繋がっていると思います。まだ仕事らしい仕事はできておりませんが日々自己研鑽をしていく所存です。

最後になりますが、先生方には多大なるご指導、ご鞭撻を頂き改めて御礼申し上げます。そして皆様の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

(知材・平成23年卒・同25年前期博士課程修了・(株)クボタ)

電子・物理工学科 (旧電気一部・旧応物)

電子・物理工学科の近況

白藤 立



卒業生の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。学科再編により発足しました電子・物理工学科では、本年度、第二期生が各研究室に配属され、第一期生の多くは博士前期課程へ進学し、各分野で研究活動に携わっています。

現在の研究分野は、パワーエレクトロニクス(重川教授)、プラズマ工学(白藤教授)、光物性工学(中山正昭教授)、物性制御工学(中山弘教授)、波動物理学(細田教授)、応用分光計測学(小林准教授)、ナノマテリアル工学(金教授)、数理工学(寺井教授)となっています。人事異動としては、本学科の前身である応用物理工学科出身の竹内准教授(光物性工学(フォトリック工学))が4月に着任されました。また、工学研究科プロジェクトテーマの一つとして、重川教授が中心となり、「高効率太陽光エネルギーハーベスティングデバイス研究開発」が発足しました。

学部では、昨年度、数理工学研究室4年生の山下明氏が工業高校向けの教科書「電気基礎」を発行し、大学生個人としては初めての文部科学省教科書検定合格を成し遂げました。

大学院では、本工学科の教員も深く関与している文部科学省平成25年度「博士課程教育リーディングプログラム」(本学と大阪府立大学の共同実施、公立大学としては唯一)が採択され、産業牽引のために重要な「ものづくり」と「ことづくり」を担う人材を育成するための博士前期後期5年一環型の大学院教育が始動します。

これからも電子・物理工学科教員全員が教育・研究ともに一層励んで参りますので、先輩諸兄のご指導とご鞭撻を何卒よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、卒業生の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

(工学研究科教授・電子・物理工学科主任教授)

近況報告

中野 誠也



早いもので、卒業から4年あまりが経ちました。今でも毎朝通勤電車から大学を見ているのですが、見慣れているようで、同時にずいぶん懐かしくも感じます。私はというと、仕事にも慣れてきたと同時に新しく学ぶべき事もまだまだ尽きず、奮闘する日々です。

現在は主に、家庭用のLPガス警報器のソフト設計を担当しています。ガス警報器は日常あまり意識されませんが、いざという時には確実な動作が求められ、地味ながら堅牢な作りが求められる製品です。大学では研究のためにパソコン用のプログラムを作成していましたが、ガス警報器の組み込みプログラムはまた違った難しさがあります。コストダウンのために可能な限り機能や容量が限られたマイコン上で、何年にも渡って安全、確実に動作することが求められ、また、ソフトだけでなく回路も把握している必要があり、そこが難しくもあり面白くもあると感じております。

自分がソフトを担当した製品が商品化されるという経験を通じて、一つの製品を開発、生産し、お客様の手元に届くまでに、様々な職種の方が関わり作られているということを実感するようになりました。普段はデスクで仕事をしているのですが、生産や施工の現場を実際に見て初めて気づく事も多く、他部門とのコミュニケーションの重要性を痛感しています。今後も広い視野をもって仕事に取り組みように勉強していきたいと思います。

最後になりましたが、皆様のますますのご活躍を心からお祈り申し上げます。

(電気・平成19年卒・同21年前期博士課程修了・新コスモス電機株)

近況報告

山下 明



皆様、それほどご無沙汰しておりますね。いかがお過ごしでしょうか。

私は教師になって半年ほど過ぎたころです。勤務校は、教員の平均年齢が50に近く、両親より年上の老練な先輩教員に囲まれるという恵まれた職場です。弥縫ばかりの府の教育行政に憂慮すること

ありますが、若く活力に満ちた生徒が成長していく様子を垣間見ることのできる素晴らしい職に就くことができ本当に幸せだと思っています。教師の特権は、やはり生徒と共に自分も成長できる場所だと感じています。

ところが、経済的な理由で就学が困難な生徒等を見てみると、彼らの勉学に対する絶望感やルサンチマンは一教職員として忍び難いものがあります。そういった社会の不条理を正すべく、自分にできることを考えては邁進の日々です。

また、教壇に立って日々感じることは、自分の学問がいかに疎かであったかということです。4年間市大でご厄介になり、自分なりに勉学に励んだつもりではありますが、いざ学んだことを教える立場になると、浅学さが露骨に現れ忸怩たる思いです。

そこで、教育公務員特例法の大学院休業制度を利用して大学院へ進学したいと考えています。現職をしばらく離れる名残惜しさもありますが、日々職掌をこなす中で、やはりもっと学問をすべきだったという反省と、また学問に専念したいという気持ちが膨らんできています。

今はそのフラストレーションを溜めこんでいますので、それがはぜる頃にまたお世話になりたいと思っています。一回り担任を終えたころ、大学院でまた学ぶことができるように、まずは学部時代にお世話になった奨学金の返済を終え、軍資金を蓄えるのが当面の目標です。

(電子・物工・平成25年卒・大阪府立高校教員)



近況報告

前田 真吾



2011年3月に後期博士課程を修了後、防衛省技術研究本部に就職し、今はその附置機関である電子装備研究所で高出力レーザーや赤外線センサの研究をしています。軍事技術はいつの時代も最先端技術の競争です。私の研究もその例外ではありません。現代装備品はステルス化が進

み、防衛力としては光で検知し、光速で対処することが求められているわけです。私は、幸運にも学生時代に研究してい

た量子エレクトロニクスや半導体工学を、そのまま活かすことができている。学生当時は、まさか自分が防衛省でこのような研究に従事しようとは思っていませんでした。私は父と医療関係の事業をしていたこともあり、大学での研究もどちらかと言えば、応用先は医療分野でした。しかし、実際には軍事技術から民間転用（スピンオフ）された技術はデュアル・ユース技術とも言われ、様々なところでその分野をリードする技術であること知り、現職に興味を抱きました。また、防衛技術も医療技術と同様に立派に国民の生命を護る非常に重要な技術なのですね。そんな思いを抱き、就職して3年近くが経ちますが、一緒に大学で学んだ仲間たちと思わぬところで出会うことがあります。思わぬ企業がデュアル・ユースや防衛に関わる技術を研究開発していて、その技術者として出会うことがあるのです。やはりその時は、防衛技術は官民間問わず国民皆で支えられているのだと感じる一方で、一緒に大学で学んだと同士は心を同じくしていた同志だったのだと同窓生の貴重さに気付かされます。

私は、いつになっても助け教えてくれる教授や、いつになっても理解し合える友人を与えてくれた大阪市立大学の環境とそれを支える方々に感謝をしてやみません。

（応物・平成19年卒・同21年前期博士課程修了・同23年後期博士課程修了・防衛省）

近況報告

毎熊 晋一



私は2010年に工学研究科修士課程を修了し、関西の自動車部品メーカーに就職しました。現在社会人4年目で、入社して以来、ハイブリッド車向けパワートレイン制御機器の設計開発に従事しています。

自動車部品の開発で重要なことは何でしょうか。QCDという言葉はメーカーの人間であれば聞き飽きるくらい耳にしますが、その中でもや

はりQが一番上にきます。開発に携わる中で最初一番驚いたことは、まさに重箱の隅をつつくように細部まで本当にその設計で問題無いか、を確認する徹底的な細かさでした。「えっそこまでみるの?」「いやいやそこはさすがにえーやろ!」、元来注意力散漫、お気楽思考の私は、諸先輩方の叱咤とともに、思考の矯正を迫られました。

しかし、日を重ねる中で段々とその必要性が腹に落ちて理解できています。なぜなら、車は人の命を簡単に奪うことができるからです。だからこそ、致命的な欠陥に至ることは無いか、ということを徹底的に調べ上げる必要があるのです。実現のためには膨大な作業が必要であり、高い技術力が要求されますが、裏を返せばそれがやりがいの源になっている、とも言えます。また、近年のグローバル化の波の中でこのキメの細かさは日本人の大きな武器の一つだと思います。これは誇りとも言えます。

多少風呂敷を広げすぎた感がありますが、自分自身まだ途上ですので、これからも日々レベルアップしていきたいと思っています。

最後に、生活の上では身体、そして何より心の健康が大事なんだ、とつくづく感じます。仕事が忙しい時は、自由だった学生時代に戻りたいな、とたまに思ったりします（笑）。皆様のご健康を僥倖ながらお祈り申し上げます。

（応物・平成20年卒・同22年前期博士課程修了・富士通テン㈱）

電気情報工学科（旧電気一部・旧情報）

電気情報工学科の近況

岡 育生



平成21年4月に旧電気工学科の一部と旧情報工学科を統合して設立した（新）情報工学科は、電気・電子、情報処理、情報通信を教育、研究の大きな3つの柱としていますが、学科名が実態とは異なっていました。このため、平成25年4月に電気情報工学科に名称を変更しました。

学科のスタッフの移動では、本年4月に。スピントロニクスが専門の仕幸准教授が新たに着任され、阿多准教授は教授に昇任されマルチメディア工学分野の担当となりました。ま

た、會田教授が定年を迎えられました。柳原准教授は愛媛大学教授として、ティティズイン特任助教は宮崎大学准教授として転出されました。

現在、大学改革の一環として専門分野の領域化が進められています。光電子工学分野と電磁デバイス工学分野がエレクトロニクス領域に、電気情報システム工学分野と情報処理工学分野が情報処理領域に、そして、情報ネットワーク工学分野、情報通信工学分野とマルチメディア工学分野が情報通信領域に統合の予定です。

また、1月恒例の論理設計作品コンテストでは、前期博士課程の笹山さんの井上賞受賞をはじめ、5件の優秀賞と敢闘賞が決定し、賞状と賞金が授与されました。3月には、前期博士課程の小谷野さん、阿多教授、岡教授が電子情報通信学会ネットワークシステム研究賞を、10月には杉山准教授が国

際会議IEEE GCCE2013においてExcellent Paper Award を受賞しています。

最後になりましたが、卒業生の皆様のますますのご活躍をお祈り申し上げます。

(工学研究科教授・電気情報工学科主任教授)

近況報告

岡田 洋平



日増しに寒さの厳しい季節となりましたが、皆様におかれましては健やかにお過ごしのことと存じます。私は平成24年3月に工学研究科を修了し、電力会社に就職しました。現在の業務は電力事業を支える通信インフラの工事設計に取り組んでいます。大学院を卒業して2年になりますが、電力業界を取り巻く環境はまだまだ厳しい状況で、社内では経営効率化に向けた取り組みが強く進められています。

電力の安全・安定供給の確保に関わる業務に携わることが出来る今の仕事には、やりがいを感じている反面、電力業界という社会に与える影響が大きい業種だからこそ、責任の重さに掛けそうになることがあります。工事設計では設備の経年劣化による取替えの他に社会的ニーズ、お客さまからの要望による機器の設置や通信線工事等、幅広く業務を行っています。その中で感じていることは、自分ひとりで出来ることには限界があるということです。

私は学部生時代、ボート部に所属していました。毎晩合宿所に寝泊りし、練習に明け暮れる毎日でした。そんな中で最後まで部活動が続けてこられたのは様々なところで部員に支えてもらったからです。また、大学院での研究生生活も、阿多先生、岡先生をはじめ多くの研究室メンバーに支えられてきました。これまでを振り返ってみても、自分ひとりで出来たことは本当に少なく、様々な局面で多くの方々に助けられて、今の自分があるのだということを改めて痛感しています。

最後になりましたが、皆様のご活躍をお祈り申し上げ、私の近況報告とさせていただきます。

(情報・平成22年卒・同平成24年前期博士課程修了・関西電力㈱)

化学バイオ工学科 (旧生応化・旧バイオ)

化学バイオ工学科の近況

辻 幸一



卒業生の皆様のご健勝とご活躍をお慶び申し上げます。まず、学科教員の近況ですが、化学バイオ工学科で長らく高分子化学分野を指導していただいた松本章一先生が平成25年3月をもって他大学に転出されました。松本先生は環境調和型高分子の開発など最先端の研究を指導されつつ、教育にも尽力され、本学科の発展に大きく貢献されました。教員一同、改めてお礼申し上げます。平成25年10月1日からは堀邊英夫先生を高分子化学分野の新教員(教授)として迎えることができました。堀邊先生は金沢工業大学にて多成分系高分子や光機能性高分子の開発研究に取り組んで来られました。化学バイオ工学科におきましても、学科の研究活動を先導していただくよう期待しております。

教員の今年度の受賞報告ですが、佐藤絵理子講師が平成24年度高分子研究奨励賞およびIUPAC International Symposium on Ionic Polymerization 2013でBest Presentation Award for Rising Starを受賞、大嶋寛教授と五十嵐幸一助教がJ. Chem. Eng. Japan 誌のOutstanding Paper Award of 2012を受賞、辻幸一教授が平成24年度大阪ニュークリアサイエンス協会賞および第62回デンバーX線国際会議の蛍光X線部門でベストポスター賞を受賞など、活躍されています。加えて、小

島誠也教授の研究グループ(後期博士課程 北川大地君)が光可逆にらせんを形成する結晶を世界で初めて発見され、大学ホームページでも紹介されました。その他に多くの大学院学生が奨励賞やベストポスター賞を受賞するなど、本学科での研究成果が国内外で高く評価されています。

最後に学生の進路状況ですが、平成25年3月に55名が化学バイオ工学科を卒業し、4名が他大学大学院に進学、46名が本学大学院で研究に取り組んでいます。また、40名が大学院化学生物系専攻修士課程を修了しました。そのうち、2名が博士課程に進学しています。アベノミクスの影響か、平成25年度の修士学生(現在M2生)の就職活動も順調に進んでいます。今年度は就職担当を務めていますが、改めて感じたことは、これまでの卒業生の皆さんが各企業においてご活躍になり、本学、本学科の評判を高めておられることです。学生の就職活動にも良い方向に影響していると感じます。いろいろな意味で、化学バイオ工学科も曲がり角に来ているかもしれません。しかし、化学という学問を基礎とし、応用化学やバイオ工学の研究分野へ発展する道筋はしっかりと根付き、企業からの理解を頂いたと思います。今後もこのような良い流れを絶やすことなく、研究と教育に邁進していきたいと思っています。最後になりますが、今後の皆様の益々のご活躍を祈念致しますとともに、引き続き本学科へのご支援とご鞭撻をよろしくお願いいたします。

(工学研究科教授・化学バイオ工学科主任教授)

近況報告

北村 倫明



私は2007年に化学生物系専攻前期博士課程（松本研究室）を修了後、株式会社日本触媒に入社し、光学材料用特殊アクリル樹脂の研究に従事しています。当社の強みとして、自社原料（モノマー）から高分子合成を行い光学用途に必須となるクリーンな設備にて製品まで一貫して

製造するという点があるため、コスト競争力、品質、開発速度において競合他社に対し差別化を図っています。

自身の主な仕事内容としては、姫路にある当社マザー工場内の研究所にて、ラボフラスコレベルの実験から数十m³の製造プロセスに適用する試作対応までを担当しています。また、移り変わりの早い業界のニーズに迅速に 대응するため、製造、プロセス設計、開発など部署を跨いだプロジェクトを推進するなど、製品に直結する工場内研究所としての利点を生かし、めまぐるしくも日々充実した会社生活を送っています。

市大での研究室時代は、先生や先輩方のご指導のもと皆で切磋琢磨して実験を繰り返した日々や、時には同期で息抜きに旅行やバイクで出かけたりなどした事が懐かしく思い起こされます。恵まれた環境で過ごした学生生活全てがかけがえない経験になったと考えています。

卒業して早くも6年が経過しましたが市大同期との付き合いは学生時代から変わらず、盆正月には近況報告も兼ねて集まりますが、同期の活躍を聞くことでまた気持ちが奮い立ちます。市大工学部応用化学科OBとして諸先輩方のご活躍に少しでも近づけるよう今後邁進していきたいと思っています。

最後になりましたが、工学部並びに皆様方の今後益々のご発展を祈念いたしまして近況報告とさせていただきます。

（応化・平成17年卒・同19年前期博士課程修了・(株)日本触媒）

近況報告

厚朴 謙一



卒業生の皆様に於かれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

私は2009年に化学生物系専攻前期博士課程を修了後、パナソニック株式会社に入社し、リチウムイオン電池の研究開発に従事しております。在学時は無機材料化学研究室（小槻研究室）にてリチウム

イオン電池用正極材料に関するテーマを、入社後は4年間で材料の基礎研究から商品化までを担当させて頂きましたので、短期間で技術の源流から商品化まで非常に良い経験をさせて頂きました。現在は電池性能の更なる向上を目指し、大阪府守口市で材料の基礎検討を行っています。

電池というと各材料技術が注目されがちですが、実際の商

品は無機・有機・高分子化学、電極構造、更にはそれらを納める機構部品まで含む多種多様な技術の塊です。その為何か評価をする度に非常に複雑怪奇な現象に悩まされるのですが、恩師の「1枚のデータから1つでも多くの情報を引き出す」、「原子・電子レベルで何が起きているのか描いてみる」という言葉を思い出しつつ、時折学生時代の教科書・ノートを開きながら日々業務に励んでいます。

昨年度まで3年間、新卒採用のリクレーターを勤めさせて頂きました。学生の皆様とは公平に接しなくてはならないのですが、やはりイベント等で相手が市大生と分かると、特に直接市大を訪問させて頂いた際は卒業生として、一歩踏み込んだ本音が出てしまうものです。本業務、本年度は後任の者に引き継ぎましたが、同じ大学で学んだこのご縁、繋ぎ紡いでいければと思います。

最後になりましたが、皆様の益々のご発展とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

（応化・平成19年卒・同21年前期博士課程修了・パナソニック(株)）

近況報告

溝渕 彩乃



私は現在、清酒メーカーの大関株式会社で商品の企画・開発と販売促進業務を行っています。若者のお酒離れが叫ばれる中、若者目線のお酒を生み出そうと日々格闘しております。マーケティングから商品を企画し、研究や生産、営業などの関係部署と連携を取りながら、商品

発売までの進行を行うことが主な仕事です。パッケージデザインやキャッチコピー、売り場装飾なども考え、研究室にいたころとはかなり毛色の違う仕事をしています。入社間もなく、まだまだ分からないことばかりですが、生物や発酵を学んだこと、先生方・先輩方にお酒の美味しさと楽しみ方を教えて頂いたことを糧に仕事に打ち込んでいます。営業部門が使用するプレゼンテーション資料の作成も行うため、講義や研究発表で、丁寧にご指導頂いたことへの感謝の気持ちが募るばかりです。

とてもスピード感のある部署にあり、入社半年にして、一部ではありますが私の関わった商品が店頭に並び、驚きと喜び、そして責任を感じました。今後、これは私が担当したと胸を張れる商品を生み出せるように、精進してまいります。

卒業後は友人と会う頻度が減ってしまいましたが、仕事での活躍や結婚を耳にすると非常に嬉しく、励みになります。お盆や年末年始に集まり、近況を報告し合うことを楽しみにしております。

最後になりましたが、工学部及び同窓会の皆様のますますのご活躍を祈念し、近況報告とさせていただきます。

（バイオ・平成23年卒・同25年前期博士課程修了・大関(株)）

建築学科 (旧建築・旧環都一部)

建築学科の近況

横山 俊祐



上向き加減の景気と報じられてはいませんが、その実感もないなかで皆様益々のご活躍とお喜び申し上げます。

近況報告の冒頭を飾るに相応しいのは、人事です。昨年10月に図形科学の鈴木木隆准教授が神戸大学に移られ、4月より瀧澤重志准教授が京都大学より赴任されました。アルゴリズム解析・シミュレーションの専門家です。また、地域環境計画の中尾正喜教授が3月に定年退職され、建築環境工学に小林知広講師が立命館大学より赴任されました。熱気流の専門を発揮する前に、1年生の相談員として「仮面浪人」への対応に追われています。お二人には、学科の未来をシミュレーションしながら、その空気を変えていただきたいと思います。昨年10月には、徳尾野徹講師が准教授に昇任され、建築計画学の研究・教育に熱さを増しています。

進路は、学部では就職9名、大学院進学15名、大学院は18名が就職しました。近年、就職先には電鉄や不動産系の企画を希望する学生が増えています。建築の仕事を受ける側よりも発注する側＝施主への志向が高まっているということでしょうか。とはいいながら、学生の設計のレベルは格段に向上してきたことが教員間での定評となっており、設計演習や卒業設計で他大学に引けを取らないような精度の高い「デカ模型」や密度の高い図面が提出されるようになりました。

建築教育も徐々に変化を遂げており、今年度は「木域学」と称して、3年生を対象に十津川村に林業実習（下草刈り・間伐体験、製材所・木造建築見学）とトップクラスの非常勤講師による木造・木構法・木質学の講義を行ない、木造習得に努めています。

OBの皆様方の益々のご支援を宜しくお願い申し上げます。
(工学研究科教授・建築学科主任教授)

近況報告

山口 陽登



大学院を卒業後、組織設計事務所に8年間在籍しました。その間、再開発、総合病院、大学校舎などのプロジェクトを経て、今年の5月に独立しました。今は大阪上本町で一級建築士事務所を主宰する傍ら、工学部で非常勤講師として建築設計演習を指導しています。

建築設計演習では、一回りほど年齢が異なる学生を指導しています。おもしろい事に、ほとんど「正確に」学生の悩みがわかってしまいます。

やはり同じ教育を同じ場所で受けている「同志」ですから、血は争えません。その悩みを共有し、寄り添いながら、突き放すことなく、共に考えるのが私のスタイルです。学生に伝わっているかどうかはさておき。

一方、主宰する設計事務所では住宅の設計をしています。描いた線が施主の生活をミリ単位で規定すると思うとスリリングですがその分とてもやりがいがあります。しかし、私が組織設計事務所で学んだことは建物が如何に都市と関わり合うか、という視点です。住宅のような身体に近い空間と、ビルや病院や大学など都市と積極的に関わる空間とをいかに同じ線上として捉えるか、今の建築家に求められる視点だと、つくづく感じています。

さらに、有志で開いている勉強会や、現代アートの作品制作など、今何をしているかをなかなか一言で言い表せません。建築家の職能が拡大していく時代を文字通り肌で感じています。これからも表現する場所を自分で決めるのではなく、目の前にあるほんやりとした大きなフィールドで作品を制作できればと考えています。

(建築・平成15年卒・同17年前期博士課程修了・siinari一級建築士事務所)

近況報告

犬伏 徹志



2013年4月より、恐れ多くも神奈川大学にて教員（助手）をやっております。ダメもとで教員公募に応募してみたら採用になってしまったわけで、人生何があるかわかりません。

私は前期博士課程修了後、構造計画研究所（以下、構研）という会社に入社しました。老舗の構造設計事務所なのですが、解析技術も高く、また建築とは無縁のソフトウェア開発やIT・通信など様々な事業を展開するユニークな会社です。私は7年間在籍し、ずっと構造設計に携わるとともに、研究開発にも取り組みました。

転職後は建築学科の荏本研究室に所属しています。幸いなことに、前職の構研に神奈川大学の卒業生が多くいる関係で付き合いが長く、毎年学生の研究の手伝いをしてもらっているようです。また、研究に使う解析ソフトも使い慣れた構研のものを多く使用しています。私自身は博士（工学）取得を目指して研究活動に励みつつ、学会活動にも積極的に参加するようにしています。

しかし、学生の扱い方には未だに慣れず、悪戦苦闘しています。丁寧に説明しているつもりでも伝わっていなかったり、そもそも研究室に來なかつたり…。「〇〇ハラスメント」なんて言葉も目や耳にすることが多く、その境界がわからないのでとても難しいです。しかし、授業や研究を通じて学生が成長しているのを見ると、とてもモチベーションが上がります。

さて、改正労働契約法によって私の任期は5年となつてしまいましたが、まだ4年間あると考えて今まで以上に努力して業績を残して、新天地を見つけようと思います。その業績の中に、母校との共同研究なんてあったら最高ですね。

(建築・平成16年卒・同18年前期博士課程修了・神奈川大学教員)

都市学科 (旧都基・旧環都)

都市学科の近況

大島 昭彦



卒業生の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。学科主任2年目で、学生の就職や学外実習、及び学科教育に関して卒業生の皆様にはいつもお世話になっております。

さて、学科教員の近況報告です。2013年4月に吉田長裕講師（都市基盤計画分野）が准教授に昇任されました。また、図形科学分野の鈴木広隆准教授（神戸大学に転任）の後任として滝澤重志先生が准教授として採用されました。滝澤先生は共通分野ですが、都市学科の学生の卒業研究の指導も行ってもらっています。一方で、中尾教授（地域環境計画分野）が2013年3月をもって定年退職されました。しかし、外部資金による特任教授としてその後も工学部（A棟2階）で精力的に研究を続けられています。

都市学科2期生（旧学科を含む）の進路は、大学院進学33名（他大学3名を含む）、公務員12名、民間会社11名（ゼネコン1、ハウスメーカー・不動産2、建築設備2、他6）です。一方、大学院生の進路は、Dr進学1名、公務員7名、民間会社26名（ゼネコン5、鉄道5、電力1、コンサル6、鉄鋼・橋梁4、建築設備3、環境設備2）です。旧土木系からすると、就職先の範囲が広がっています。

さて、都市学科の初めての卒業生が出た2013年3月時点で都市学科同窓会（都市会）を立ち上げました。といっても1期生のみ48名程度ですので、来年度には既存の土木会、環境都市同窓会と合流する予定で準備をしているところです。卒業生の皆様には新しい同窓会をさらに盛り上げていただければ幸いに思います。

最後に、柳生忠彦氏（昭和41年卒業）が平成25年春の叙勲で「瑞宝小綬賞」を受賞されましたことを記して、お祝いを申し上げます。

（工学研究科教授・都市学科主任教授）

近況報告

山本 和哉



平成2年に工学部土木工学科を卒業して23年が経ちました。思い起こせば当時の私は、大学の先生方から見ればかなりの劣等生であり、多数の先生方から叱責を受けました。そんな中、当時の教授に「勉強する気が無いなら、この場で『大学を辞める』と言え！しかし、卒業する気持ちがあるならこの研究室で拾ってやる」と言われ、

「卒業します！」

と即答して、私の最終学年が始まりました。

この様にして始まった研究室生活は私のそれまでの5年間とは打って変わったものとなりました。卒論のテーマは実験系だったため、時間と労力を使った試行錯誤の繰り返しでし

た。そんな状況で、先生方は不真面目な私を容赦無く指導して頂き、そのお蔭なのか私も卒論テーマにのめり込み、実験に打ち込んでいきました。この様に一年間を過ごし、卒論が完成した時の充実感は今でも忘れません。

卒業後、私は建設会社に入社しましたが、仕事上で数々の困難に直面した時、この卒論に携わった一年間の経験が役立ちました。この時の経験が私の仕事人生における基礎を形成してくれたと今でも思っています。

さて、私の建設会社での業務経歴ですが、設計、陸上施工、海上施工、管理業務、営業と様々な職場を経験しました。特に施工業務においては、大自然の力の凄さを見せつけられ「人間の考えでは対抗できない」と痛感する事が多数でした。そんな現場条件の中、人間社会が必要な構造物を、自然を理解し、自然と調和させながら構築していく、土木技術者の仕事はとても魅力的だと思います。

現在は後進を指導する年代になりましたが、土木現場の魅力を若手に伝えたいと頑張っている毎日です。

（土木・平成2年卒・東洋建設㈱）

近況報告

大倉 祥平



大学を卒業して4年、現職で鉄道土木の仕事をしています。鉄道と言えば、レールの歪みを修正したり、まくら木や道床（碎石）を交換したりする作業が思い浮かぶと思いますが、私が携わっている仕事は、線路を支える土木構造物の設計や、施工管理が主なもので、一般的な

土木構造物の設計・施工管理とは大して差はありません。その代わり、公共性が非常に高いものを作っているの、お客様の安全・利便性を最優先に考え、「電車が時刻通りに来るのが当たり前」となるよう、施工計画を考えないといけないことが、他の土木工事と異なり、鉄道土木に特有なことではないかと思います。入社から3年間は、在来線に近接した場所で構造物を作る工事に携わり、鉄道構造物に対していかに影響を与えずに工事を進めるか、といったことに苦労しながら業務に携わってきました。そして4年目からは、この頃話題となっている中央新幹線の一部となる、山梨リニア実験線の更新工事に関する設計・施工管理業務に携わっています。この工事では、当然のことながら誰もやったことのない内容もあり、日々悪戦苦闘しながらも、周りの上司や先輩と相談しながらなんとか業務を進めています。業務の内容はとても難易度が高く、苦労することも多いですが、将来、中央新幹線が営業線として開業した際には、「世の中に対して貢献できるんだ」ということを思うと、強い責任感と使命感を感じ、日々の苦労も吹き飛んでしまいます。これからも技術力を高め、高い意識を持って仕事に取り組んでいきたいと思っています。

（土木・平成21年卒・東海旅客鉄道㈱）

近況報告

遠藤 徹



環境都市工学科卒業生の皆様、ご無沙汰しております。お変わりなくお過ごしでしょうか。皆様が社会でご活躍されている中、私は現在も都市学科の教員として本学に在職し後輩たちの成長を見届けております。立場が変われば言うことも変わるもので、自分の学生時代の頃のこと

とは棚に上げ、学生には小言を言っている毎日です。

さて、私が本学に在学してから10数年が経ちますが時の流れとともに様々な変化がありました。大きな変化としましては、既に皆様もご存知のように環境都市工学科は都市基盤工学科とともに都市学科として新しく生まれ変わりました。1学年の学生数が50名ほどとなり、都市を対象に都市デザイン、環境創生、安全防災といった幅広い教育を行っております。

す。ただ、学科名から「環境」というキーワードがなくなったこともあり、環境都市工学科として入学してきた学生と比べると、環境に興味を持っている学生が少なくなったと感じます。また、私が学生の頃は「環境」が一種のはやりでしたが、最近では「環境」といってもなかなか人が集まらないように感じます。特に、都市の環境分野に関わる仕事や就職先のイメージが学生にはできていないようで、どのようにすれば学生が都市環境に興味をもてるかを悩みながら教育を行っております。

そこで、卒業生の皆様にお願ひがあります。同窓会や在学生と出会う機会がありましたら、皆様の社会での体験談を語っていただき、仕事のやりがいや楽しさを伝えてください。その際は、コーヒー程度でしたらお出ししますので、気軽に研究室にお越しください。

(環都・平成15年卒・同17年前期博士課程修了・同20年後期博士課程修了・大阪市立大学工学部研究科教員)

★★★ 経常的活動のためのご寄付のお礼とお願ひ ★★★

日頃は、当同窓会の活動にご協力・ご支援いただき有難うございます。お蔭様で、2010年(平成22年)11月には当会の設立50周年記念を祝うことができましたが、この間の諸活動は会員の皆様のご入学時にお納め頂いた終身会費を主要財源として継続できてきました。

しかし、2005年の大阪市立大学校友会設立以降は、それまでの各学部同窓会独自の会費徴収が校友会自身の活動費とともに、ご入学時に一括徴収して各学部同窓会に配分される方式に変わり、昨年までの6年間の当会への会費配分額は年々減少し、2011年度には校友会発足以前の2/3にも満たなくなり、事務経費などの可能な削減を進めつつありますが、まだ年収支をバランスさせ得ず、年々預金を取崩す状況になりました。

そこで、会員各位に随時ご寄付をお願いするため、2011年12月に下記の「ゆうちょ銀行振替口座」を開設させていただきました。

何かとご出費もおありとは存じますが、同封の振込用紙にて引き続きよろしくお願い申し上げます。

なお、開設以後現在までに、延べ110名の方から83万円超のご献金を賜りました。有難うございました。

「ゆうちょ銀行振替口座」

口座記号番号：00970-0-255218

加入者名：大阪市立大学工学部同窓会

寄付者ご芳名 (2013年11月30日現在)

※の方は複数回ご寄付

青砥 正典	東 恒雄	池田 博英	池田 精二	石井 謙蔵	石桁 正士
石田 喬重	井田 憲治	井上 俊一	井上 健	井上 保	伊庭 力
馬越 正二	梅谷 光男	江崎 昌男	大倉 浩司	太田 克己	大月 正雄
大西 史人	大引 常弘	岡本 好郎	岡本 豊	奥田 上総	小原 啓健
鹿島 雅美	加藤 隆	金澤 克義	川越 均	北口 善紀	木梨 洋
木村 力夫	木村 伊久夫	久野 雄也	蔵城 正之	小林 忠敬	小山 正治
柿原 昭博	板倉 啓祐	坂根 正弘	志野 太一	柴田 慶三	柴田 重治
杉本 弘	鈴木 正彦※	鈴木 理子	千田 恒人	高橋 聡	建部 渉
谷本 隆一	玉井 義弘	津坂 治男	坪井 貞夫	津山 初雄※	堂ノ本 翔平
富山 義司	中井 康秀	中川 博之	中島 光夫	中野 享	中村 卓也
西口 克彦※	西崎 毅	西畑 恵治	西村 忠孜	西村 善明	西村 貞雄
西村 邦夫	新田 剛巳	野尻 明	萩原 道興	橋本 勇一郎	八田 佑※
羽太 義人	濱田 明	林 敏郎	林 隆夫	林 弘志	東 忠則
人見 宗男	堀田 正国	本多 千晶	前川 泰彦	真野 司郎	丸山 公一
三浦 士郎	三井 隆史	宮崎 赳匡	村田 昭※	目加田 宏	森 薫
森川 収	森下 英利※	森本 幹雄	森脇 郁朗	八谷 誠	山口 英昌
山本 修章	横田 明博※	吉田 幸治	吉田 稔	吉村 美穂	和田 敏夫

学生向け工場見学会について

工学部同窓会創設50周年記念募金でご寄付戴いた募金を活用した記念事業の一環として学生工場見学会を平成23年2月から始めた。初年度は堺の臨海にある、日立造船(株)と三井化学(株)を見学させてもらった。2年目の昨年度は神戸六甲アイランドにある(株)ダイヘン六甲事業所の新鋭ロボット製造工場を見学させてもらった。見学後は関係会社のダイヘンテック(株)の社長である笠上理事にロボット開発に関する熱い思いを語っていただき、学生達との活発な質疑応答を行った。

3年目を迎えた今年度は後期試験終了直後の2月14日に尼崎にある、ヤンマー(株)のディーゼルエンジンの製造工場を見学させてもらった。

この工場の最高責任者である常務取締役事業本部長は我が工学部機械工学科を53年に卒業された森本繁氏であり、多くの卒業生もこの職場におられたということで、見学をお願いした。

1000馬力から5000馬力の高速ディーゼルエンジンを年間2千数百台生産する、世界有数の近代工場である。ヤンマーは昨年創立100年を迎えた伝統のある会社で森本先輩をはじめとする我が大学の卒業生たちも誇りを持って仕事に取り組んでいる気概が感じられた。見学後の講演会では、森本本部長が、ヤンマーの次の100年に対する思いを熱く語られ、若

い人たちへの期待を話された。

見学、講演会の終了後会社内の施設で特機エンジン事業部の森本本部長をはじめとする市大卒業生と、わざわざこの日のために滋賀の工場から駆けつけてくれた深江精密機器開発部長(機械59年卒)を含む10数名と学生との懇談会が開催された。学生たちも年があまり変わらない先輩たちの会社内での活躍話に耳を傾け、熱心な質疑応答が繰り広げられた。会社から派遣のリクルーターの話でなく、会社生活の生の声を聞くことが出来、何年か先に社会に出るときに大いに役立つのではないかと思った。

この事業もまだ始まったばかりで、見学会の目的や開催時期、行き先などを学生たちに伝える方法をまだまだ研究する必要がありますが、同窓生の皆様も自分の会社を見せてやってください。社会の厳しさや、社会が若者たちに望んでいることを伝えてやってください。自分の所の会社を見せてあげようという卒業生の皆様、同窓会行事委員の方までお知らせください。

尚25年度は見学会は来年2月中旬に大阪ガス(株)泉北事業所を見学させてもらうべく交渉中であります。大学行事が集中している2月中旬の見学会は時期的に適当でないとの意見もあり、今後大学と相談の上時期、行き先を決定したいと思っています。

田守 芳勝(応物・昭和38年卒・理事)



2011.3 日立造船堺工場にて



2012.2 (株)ダイヘン六甲事業所にて



2013.2 ヤンマー(株)尼崎工場にて

事務局年報 (2013.2～2013.12)

2013年(平成25年)

2月：市大の学術情報総合センター文化交流室にて第24回評議員会を開催、第20期2年目(2012年度)の経過と収支決算報告及び会計監査報告、第21期1年目(2013年度)の理事の改選・事業計画・予算を承認。評議員会は午前10時30分から開催し午前11時30分に終了した。その後、工学部学術情報交流センターにおいて24名の参加で茶話会を行った(9日)。工学部学生「工場見学会」でヤンマー(株)尼崎工場へ学生22名の参加があった(14日)。

3月：平成25年度新入生への当会会則・入会案内・会報の配布を工学部事務室に依頼(1日)。新入生1名に奨学金貸与(13日)。

卒業・修了生宛送別文書と会費納入要請書の配布を各学科理事等に依頼(15日)。工学部大講義室で「工学部・工学研究科送別式(学部卒業：257名、前博修了：185名、後博修了：7名)」に木村会長及び理事有志が出席、その後、電子・物理工学科卒業の山下明君に表彰状と記念品を贈呈(21日)。

4月：2013年度入学式が大阪市中央体育館にて挙行される。(5日)。新入生への工学部同窓会入会受付(8日)。2回生1名に奨学金貸与(15日)。

「工学部同窓の集い」を「グランド白楽天」で開催し、貴志義昭理事と大嶋寛理事の講和を拝聴の後、懇親会を催し、恩師(非会員)2名を含む51名の同窓が絆を深め合った(12日)。

5月：第119回市大ポート祭に協賛アドバルーンを掲揚(18、19日)。

6月：第21期第1回理事会で、大阪市立大学同窓会報の発送等についての検討(5日)。

7月：第12回ホームカミングデー第1回実行委員会で今年度の取組を検討(5日)。

8月：工学学術情報交流センターの夏季休館(12～16日)。拡大会長・副会長会で当面の活動について検討(22日)。

9月：第12回ホームカミングデー第2回実行委員会で今年度の詳細を決定(6日)。

第21期第2回理事会で同窓会報29号の発行、評議員会の日程等について検討した。(30日)。

10月：第12回ホームカミングデー案内状を理事・評議員・記念募金拠出者を中心に送付(10日)。

会長・名誉会長・学科主任・卒業生に会報29号原稿の依頼状を発送(16日)。

11月：第12回ホームカミングデー受付28名の同窓会員の参加(3日)。

工学部同窓会奨学金奨学生募集開始(11～15日)1名の応募があった。

会報29号の初稿を開始(25日)。

12月：奨学金貸与者決定審査委員会開催(5日)。

第21期第3回理事会で評議員会の議案等について検討。(13日)。

(1)第20期第2年度(2012年1月～12月)収支決算書

(イ)経常費収支決算表(円)

収 入		支 出	
終身会費	3,933,250	会議費	161,845
預金利息	29,586	行事費	97,040
雑収入	0	交流・懇親行事	137,071
経常寄付	137,950	会報	2,800
前期より繰越	4,053,874	会員名簿	178,500
		協賛費	433,887
		渉外費	0
		事務局費	2,471,480
		通信費	34,000
		事務費	84,070
		備品費	46,800
		次期へ繰越	4,507,167
合 計	8,154,660	合 計	8,154,660

(ロ)貸借対照表(2012年12月末、円)

借 方		貸 方	
振替口座	142,614	累計剰余金	4,053,874
普通預金	4,528,246	当年剰余金	453,293
定期預金	24,650,173	特別基金	24,813,866
合 計	29,321,033	合 計	29,321,033

(2)第21期1年度(2013年1月～12月)理事会役員

会 長：木村 雅之(電51)

副会長：西口 克彦(化43)、谷口 徹郎(建59)、柳川 重昌(物44)、
黒山 泰弘(土50)

理 事：人見 宗男(機31)、東 恒雄(機41)、宮本 万功(機43)、
笠上 文男(機50)、吉田 稔(機52)、瀧山 武(機59)、
栗政 幸一(電31)、建部 渉(電35)、行藤 三男(電36)、
南 繁行(電45)、前谷 治男(電51)、村治 雅文(電62)、
近藤 紘一(化37)、山田 文一郎(化40)、三浦 洋三(化42)、
大嶋 寛(化49)、上堂 竹壽(建35)、貴志 義昭(建41)、
坂 壽二(建42)、湊勝 比古(土41)、小林 俊明(土44)、
辻江 賢治(土48)、日野 泰雄(土50)、大島 昭彦(土55)、
田守 芳勝(物38)、斉藤 壽士(物44)、山本 孝(物45)、
大前 秀治(物56)

監 事：高桑 久茂(電46)、志野 太一(物40)

(3)第21期1年度(2013年1月～12月)事業計画

①会報第28号を2月末に発行・配布。

②工学部・全市大行事及び事業への協力。

③会員相互の親睦交流の促進。

④特別基金の運用と有効活用。

⑤工学部同窓会奨学金基金の運用。

⑥準会員(在学生)の工場見学の実施。

⑦経常費収支差の改善。

(4)第21期1年度経常費予算(円)

収 入		支 出	
終身会費	4,020,000	会議費	160,000
預金利息	1,000	行事費	60,000
雑収入	0	交流・懇親行事	100,000
経常寄付	50,000	会報	1,500,000
前期より繰越	4,507,167	会員名簿	180,000
		協賛費	430,000
		渉外費	20,000
		事務局費	2,300,000
		通信費	40,000
		事務費	90,000
		備品費	50,000
		次期へ繰越	3,648,167
合 計	8,578,167	合 計	8,578,167

工学研究科・工学部の研究分野一覧

専攻名	学科名	分野名	教員名	専攻名	学科名	分野名	教員名	専攻名	学科名	分野名	教員名
機械物理系	機械工学科	熱工学	西村 伸也 伊與田 浩志	電子情報系	電子・物理工学科	電磁気学	重川 直輝 武智 誠次	都市系	建築学科	建築防災	谷池 義人 谷口 徹郎
		流体工学	加藤 健司 脇本 辰郎			材料計測工学	白藤 立 村治 雅文 田中 健司			建築構造学	谷口 与史也 吉中 進
		機械力学	川合 忠雄 今津 篤志			光物性工学	中山 正昭			建築構法及び材料	藤本 益美 木内 龍彦
		(計測・評価)生産加工工学	佐伯 壮一 佐藤 嘉洋 川上 洋司			フォトニック工学	竹内 日出男			建築環境工学	梅宮 典子 小林 知広
		動力システム工学	瀧山 武 高田 洋吾			物性制御工学	中山 弘 福田 常男			建築計画	横山 俊祐 徳尾野 徹
		材料知能工学(複合材料)	逢坂 勝彦 中谷 隼人			波動物理工学	細田 誠 葉嶋 茂喜			建築デザイン	宮本 佳明 倉方 俊輔
		材料数理工学	山崎 友裕 大島 信生			応用分光計測学	小林 中			コミュニティデザイン	嘉名 光市 吉田 長裕
		材料機能工学	兼子 佳久			ナノマテリアル工学	金 大貴		都市系	構造及びコンクリート工学	鬼頭 宏明 角掛 久雄
		材料物性工学	横川 善之 岸田 逸平			数理工学	寺井 章 杉田 歩			応用構造工学	山口 隆司 松村 政秀
	工学部 共通	応用数学	多羅間 茂雄 瀧澤 重志		電気情報工学科	光電子工学	向井 孝彰 宮崎 大介			地盤工学	大島 昭彦 山田 卓
		機械工作室	吉岡 真弥			電磁デバイス工学	辻本 浩章			都市基盤計画	内田 敬 ※吉田 長裕
化学生物系	化学バイオ工学科	無期工業化学	小槻 勉 有吉 欽吾			スマートエネルギー	仕幸 栄治		都市系	河海工学	重松 孝昌
		有機工業化学	畠中 康夫 南 達哉			情報システム工学	高橋 秀也			環境都市計画	日野 泰雄 ※嘉名 光市 佐久間 康富
		高分子化学	堀邊 英夫 佐藤 絵理子			情報処理工学	鳥生 隆 中島 重義			地域環境計画	西岡 真稔 鍋島 美奈子
		工業物理化学	辻 幸一 米谷 紀嗣			知識情報工学	田窪 明仁 上野 敦志			環境水域工学	矢持 進 遠藤 徹
		材料化学	小嶋 誠也			情報ネットワーク工学	岡 育生			都市リサイクル工学	貫上 佳則 水谷 聡
		生物分子工学	北村 昌也 中西 猛			マルチメディア工学	阿多 信吾			※建築学科兼任	
		生物化学工学	大嶋 寛 五十嵐 幸一			通信システム工学	原 晋介 杉山 久佳 辻岡 哲夫				
		生体機能工学	長崎 健 東 秀紀								
		生体材料工学	田辺 利住 立花 亮								
		細胞工学	東 雅之 立花 太郎								

編集後記

同窓会だより第29号をお届けします。

昨年は大阪市立大学同窓会が新たに発足しましたが、大阪府立大学との統合の話も進んでおり、同窓会の運営にも大きな影響が出てくると思われます。

当工学部同窓会は、今後の運営を如何にすべきか、理事会で喧々諤々行われています。

今後の同窓会運営は如何にあるべきか？その理念と現実的な運営とをどの様に整合性を取るか？が課題です。具体的には、支援する工学部は存続し、今後も我々の母校で有り続けるのか？如何様な支援が必要で、かつ可能なのか皆さんのご意見を頂きたい所です。次に、同窓生間の情報交換は本紙（同窓会経費の主要支出）やホームページを、如何様に活用すべきか検討を要する事項です。また、運営に必要な資金は、如何様に収集するのか？も大きな課題です。やがて、全ての工学部同窓生に年会費と言う名目で集めなければならない状況も推察されます。取り敢えずの資産は残されていますので運営には支障は有りませんが考えておくべきと思います。

以上、現状についてお知らせしましたが、皆さんのご意見をどしどしお寄せ願います。

(西口 克彦)

編集委員 (○印：委員長)

○西口 克彦 (応化：昭和43年卒)
山田文一郎 (応化：昭和40年修)
谷口 徹郎 (建築：昭和59年卒)

人見 宗男 (機械：昭和31年卒)
大嶋 寛 (応化：昭和49年卒)
大嶋 昭彦 (土木：昭和55年卒)

瀧山 武 (機械：昭和59年卒)
村治 雅文 (電気：昭和62年卒)
田守 芳勝 (応物：昭和38年卒)

“工学部同窓会の集い”

—第10回キャンパス交流会—

来春の“工学部同窓会の集い”は第10回キャンパス交流会として、下記の通り開催します。

講演会では、次のお二人にお願いいたしました。

また、懇親会は旧教養食堂で開催し、現・旧の恩師の方々にもご臨席頂くようお願いする予定です。同期生や職域での同窓生をお誘い合わせの上、ご出席下さい。ミニ・クラス会や、ミニ・職域同窓会を兼ねてのご参加も大歓迎で、年々増えております。

記

★日 時：2014年2月15日（土曜日）午後2時30分～午後6時00分

★講演会：時間＝午後2時30分～午後4時20分

会場＝大阪市立大学学術情報総合センター（1階）文化交流室

1) “太陽光燃料（Solar Fuels）を実現する人工光合成”

大阪市立大学複合先端研究機構 教授、大学院理学研究科兼務

大阪市立大学学術情報総合センター 所長 橋 本 秀 樹 氏

2) “大阪市立大学の近況について”

大阪市立大学大学院工学研究科 教授 特命副学長 大 嶋 寛 氏

★懇親会：時間＝午後4時30分～午後6時00分

会場＝旧教養食堂

会費＝3000円（当日、会場にて徴収）

【申込方法】

- 連絡事項：①ご氏名、②学科(専攻)名、③ご卒業(修了)年、
④住所(連絡先)、⑤講演会の出欠、⑥懇親会の出欠
- 方 法：ハガキ、FAX または e-mail
- 期 日：2014年2月5日（水曜日）

【申 込 先】 大阪市立大学工学部同窓会 事務局

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

FAX：06-6605-2769

e-mail: dousoukai@eng.osaka-cu.ac.jp（メールアドレスが変わりました）